

## 19 幼児教育カリキュラムと英語教育

幼児教育の3歳以上のカリキュラムは、平成30（2018）年の**幼稚園教育要領**、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をもとに作成される。

**領域「言葉」**のねらいは、(1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう、(2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう、(3)日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる、である。もちろん、これらの項目は日本語を用いることを大前提としている。

秀真一郎他（2013）は、幼児の英語教育における活動テーマと内容事例を表1のように示している。

表1 幼児の英語指導の活動テーマと内容事例

**Colors (色)**

Red, Yellow, Blue, Green, Pink, Orange, White, Purple, Black, Grey, Gold, Silver, Bronze

**Numbers (数)**

One, Two, Three, Four, Five, Six, Seven, Eight, Nine, Ten, Eleven, Twelve, Thirteen...

**Animals (動物)**

Dog, Cat, Mouse, Rabbit, Monkey, Elephant, Horse, Cow, Pig, Tiger, Lion, Fish, Frog, Caterpillar, Turtle, Snail, Beetle, Spider, Snake, Duck, Chick

**Feeling (感情)**

Happy, Sad, Angry, Sleepy, Thirsty, Hungry, Tired

**Body Parts (体の部分)**

Head, Shoulders, Knees, Toes, Eyes, Ears, Mouth, Nose, Hands, Arms, Feet, Elbows, Nails, Stomach

**Shapes (形)**

Circle, Triangle, Square, Star, Heart

**Foods (食べ物)**

Apple, Orange, Strawberry, Banana, Peach, Watermelon, Tomato, Potato, Carrot, Corn, Cucumber, Pumpkin, Eggplant, Onion

**Action (アクション)**

Jump, Stop, Walk, Jog, Hop, Run, Clap, Dance, Slow, Fast

幼児教育カリキュラムの上で、英語教育が領域「言葉」の分野に含まれるケースはまれである。英語によるイマージョン教育を積極的に行っている一部の幼児教育施設を除いて、英語教育は次のような場合が考えられる。

1つめに、家族の仕事の都合により海外で生活して帰国し、そのために日本語での指導が困難な幼児に対して、英語を用いる場合がある。2つめに、保育内容「人間関係」で高齢者や外国にルーツをもつ人とのかかわりが取り上げられており、英語を話す人に対して、英語で関わる指導が考えられる。最後は、国旗に象徴される国際理解教育である。現在はインターネットを通して、子どもどうしがディスプレイ画面で対面する場合もある。その際、ごく自然に相手国の言葉で挨拶をすることなどが考えられる。

小学校の教育において、英語に親しむものとして小学校3年生からの外国語活動、組織的に英語教育を行うものとして小学校5年生からの外国語科が設定されている。一方、幼児教育のいかなる法令にも英語教育に関する直接的な記述はない。

幼稚園教育要領の総則、第1節 幼稚園教育の基本の2に「幼児の自発的な活動としての遊びは、……遊びを通しての指導を中心として……」とある。この文言通り、幼児教育では「言葉遊び」「数遊び」「お絵描き遊び」「水遊び」「運動遊び」「伝承遊び」等、遊びが盛んである。その中に「**英語遊び**」が含まれても、筆者に違和感はない。幼児教育の目標は到達目標ではなく方向目標で表される。インターネット、ICTの普及、グローバル化により、すでに日本人の生活に幼児期から英語は浸潤している。

NHK子育て番組「すくすく子育て」を視聴していると、ここ2,3年に登場された解説者は「子どもが身に付ける語彙数」＝「日本語の語彙数」+「他の言語の語彙数」と説明なさる。このことは、文部科学省の小学校2年生までは母語である日本語指導という方針と一致している。

(横井 一之)